

まちエネ協議会 DB 部会 座談会 開催報告

日時	2019年8月28日(木)、15:00~17:30	
場所	エコまちフォーラム エリアエネルギーマネジメントセンター	
会合	第9回座談会	
主催	街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーサービス DB 部会	
テーマ	「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」	
議題	1) これまでの座談会振り返り 2) 関連話題の提供と意見交換	
	① 「情報銀行の最適なビジネスモデル」(橋田氏)	
	② 「気象データを活用した最新事例」(山口氏)	
座長	早稲田大学	高口 洋人氏
司会	エコまちフォーラム	中丸 正 氏
幹事	日立製作所	吉本 尚起氏
補佐	日立総合研究所	板橋 一男氏
討論者	東京大学	橋田 浩一氏
	日本気象協会	山口 浩司氏
	住環境計画研究所	鶴崎 敬大氏
	富士通研究所	西野 文人氏
	グリッドデータバンク・ラボ	平井 崇夫氏
	日本電気	内藤 政宏氏
	日本電気	川村 工 氏

1. 概要

2019年8月28日(木)、エコまちフォーラムにて、街づくりエネルギーマネジメント推進協議会エネルギーサービス DB 部会(部会長：早稲田大学/高口洋人教授)主催により、「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサー



ビス DB の構築戦略」と題した第9回座談会が開催された。第1~8回までの座談会では、テーマに関連して計17件の話題提供をいただいた。第9回では電力や気象など様々なデータを利活用するサービスプラットフォームやビジネスモデルに関する2件の話題提供をいただき、これまでの座談会の論点を整理する。

2. 話題提供と意見交換

第9回座談会では、東京大学の橋田先生より「情報銀行への最適なビジネスモデル」と題して、データポータビリティの考え方による個人向けサービスのメディエーター事業こそが最適なビジネスモデルとの説明があった。「データポータビリティ」とは事業者が持っている個人データをその本人に提供し、本人は自由に他の企業にデータを提供・開示し、サービスを受けるために自由に使うことができる考え方である。メディエーターは事業者のサービスからカタログを作成する。本人のエージェントは本人の手元のデータと本人リクエストとメディエーターが作成したカタログをマッチングする。メディエーター業は、事業者側から見ると販売代行業で、その市場規模はGDPの2割に達する。

日本気象協会の山口氏より「気象データを活用した最新事例」と題して、気象データを高度に活用したエネルギー市場における最新事例の紹介があった。今、電力市場は、人によって管理・運用される電源から気象によって変動する電源へ大きくパラダイムシフトしている。気象で変動する電源をスマートに活用できれば、理想的には無限のエネルギーを手に入れることができる。そのためには、気象モデルによる供給量と需要量の長時間(24～72時間先)予測と機械学習による短時間(5分先～数時間先)予測が鍵を握る。太陽光による発電量予測には日射量だけでなく積雪などの把握も欠かせない。

3. 論点整理

これまでの座談会で討論された論点のうち、最も重要なものの1つが「電力使用量のデータは誰のものか」である。今回の座談会での議論により、「送配電事業者がもっている需要家のデータを需要家本人に引き渡し、本人同意があれば全ての事業者がデータを活用できるようにし、それぞれの事業者がサービスで得た収益を社会全体で適正に分配すべきである」という1つの方向性を導いた。今後は、これを元にさらなる議論を進めていく。

以上